

SFTS（重症熱性血小板減少症候群）は、ダニから感染する伝染病（SFTS ウィルス）です。ダニが全ての感染源なのですが、伝染ルートは、3種類あります。

- ①ダニから動物へ（犬、猫、野生動物などにダニが付着吸血した際に人が感染します。）
- ②ダニから人へ（人にダニが付着吸血した際に人が感染します。）
- ③ダニから感染した SFTS 感染犬、SFTS 感染猫から人へ（感染動物から SFTS ウィルスの人へ感染します。）

もともとはダニから感染しますので、ダニに咬まれないようにしましょう。

人は、野原に出かける時には長袖長ズボンを着用しましょう。帰宅後は必ず衣服を叩き、着替えましょう。

犬・猫においては、散歩から帰る際には必ずブラッシングを行いましょう。ブラッシングでダニを落とす事が出来ます。

また、前もって予防策として、**ダニ駆除薬**（フロントライン、マイフリーガード、ネクスガード、スペクトラ、ブラベクトなどの動物医薬品）を使用しておけばさらに安心です。

## ～NHK のニュースより～

# マダニ媒介ウイルス ペットの犬から 人に感染 国内で初 （10月10日）

マダニが媒介するウイルスによる感染症が相次ぐ中、ことし6月、徳島県の40代の男性がペットの犬からウイルスに感染していたことがわかりました。マダニが媒介するウイルスがペットの犬から人に感染したことが確認されたのは国内で初めてです。

厚生労働省によりますと、ことし6月上旬、徳島県に住む40代の男性がペットの犬の体調が悪くなったため動物病院を受診したところ、マダニが媒介するウイルスによる感染症、SFTS＝「重症熱性血小板減少症候群」を発症していたことがわかりました。

さらに飼い主の男性も6月中旬に体調不良となり、その後の検査でマダニが媒介するウイルスに感染していたことがわかりました。男性にはマダニにかまれた痕跡はなく、厚生労働省は男性はペットの犬からウイルスに感染したと断定しました。

厚生労働省によりますと、SFTSは4年前に国内で初めて確認され、これまでに30

3人が発症し、このうち59人が死亡していますが、ウイルスがペットの犬から人に感染したことが確認されたのは国内で初めてだということです。男性とペットの犬は現在ともに回復しているということです。

## マダニ媒介ウイルスに野良猫から人に感染（7月24日）

マダニが媒介するウイルスによる感染症が相次ぐ中、去年、50代の女性が、ウイルスに感染していた疑いのある野良猫に手をかまれ、その後、死亡していたことが分かりました。

国内で動物から人に感染したとみられる事例は初めてで、厚生労働省が注意を呼びかけています。

マダニが媒介するウイルスによる感染症、SFTS＝「重症熱性血小板減少症候群」は4年前に（平成25年）、国内で初めて確認され、これまでに西日本を中心に266人が発症し、このうち57人が死亡しています。

SFTSは、一般的に人がマダニにかまれることで発症しますが、厚生労働省によりますと去年の夏、西日本の50代の女性が、弱った野良猫を動物病院に連れて行った際に手をかまれ、およそ10日後にSFTSを発症して死亡したということです。

野良猫は症状などから、マダニが媒介するウイルスに感染していた可能性が高く、動物から人に感染したと見られる事例は、国内で初めてだということです。

また、先月以降（6月）、ペットとして飼われている猫や犬がSFTSを発症した事例が確認され、厚生労働省は猫や犬を飼う人や獣医師などに注意を呼びかけています。

厚生労働省は、「ごくまれではあるが、猫や犬から人に感染する可能性があり、ペットを飼っている人はダニの駆除剤を活用したり、弱っていたら動物病院を受診するなどの対策を取ってほしい」としています。

厚生労働省 HP（ダニ媒介性伝染病 H）もぜひ検索し、ご覧下さい。